

まっかくししおどり
末角鹿踊

- ◇ 指定日 平成元年12月12日
- ◇ 所在地 小国
- ◇ 保持団体 末角鹿踊保存会

幕踊系のシシ踊に分類され、鹿頭が大きく勇壮な型であり、髪にドロノキをカンナで削って長くりボン状にした「カナガラ」をザイとしてシシの背中を覆っています。^{かしら}頭につく前幕は、柄模様の布地に赤・白・黒の横長の生地を縫い合わせて幕にしています。

さらに「ヤナギ」と称する竹六尺のものに、紙を細く切って柳の葉を模してはりつけたものを腰に着けます。袴はモンペ型の狩袴を用い、履物は白足袋にわらじをつけています。

盆の14日に、庭元や初盆の家で^{えこう}回向といって、死者や先祖を供養します。小国地区の大圓寺で供養の踊りを披露します。また、8月の^{かも}加茂神社の例祭では、太夫の家や橋で礼講をあげ、神輿のお供をしてから鹿踊を奉納します。

かつては、末角鹿踊が境内で踊ってから、よその芸能が踊りを奉納する習わしだったといえます。

